平成２６年度　第２回小金井市立はけの森美術館運営協議会

平成２６年７月２３日（水）

【鉄矢会長】　平成２６年度第２回小金井市立はけの森美術館運営協議会を開催します。

配付資料の確認をしましょうか。次第があって、ホチキスどめの一番上、開催した展覧会・ワークショップ等、それから、もう一つが、「段ボールでタイコをつくろう！」のホチキスどめ、横のホチキスどめ、スケジュールと書いてあるもの、猪熊弦一郎展のカタログと、あとは、会議録ですね。会議録に関しては８月１９日までです。お願いします。

【平岡館長】　会議録の説明を事務局のほうでしていただけますでしょうか。

【事務局（山田）】　昨年度の第２回の会議録について取りまとめましたので、ごらんいただいて、そこに添付しましたとおり、来月の１９日までにご回答いただければということでお願いいたします。

【鉄矢会長】　よろしくお願いします。

では、次第にのっとりまして始めたいと思います。　１、展覧会の観覧、これは終わったということで、２、事業報告で、こちら、事務局のほうから。

【中村学芸員】　まず、開催した展覧会・ワークショップ等についてですが、前回、第１回のときに観覧していただきました所蔵作品展「日々の花々」が６月１日、日曜日で終了いたしました。開催日数が５６日で、入館者数が１,９２３人ということで、無料観覧日に２２６人来ていただいて、１日平均３４人の来館者ということで、かなり来ていただいたと思っております。グッズのほうも花のはがきがかなり売れたので、なかなかよかったと思っております。

展覧会の開催に関しては以上です。

続きまして、教育普及事業に関してなんですが、「段ボールでタイコをつくろう！リズムをつくろう！！」、こちらの写真になります。

【荒木学芸員】　ここしばらく、この多目的室で行うワークショップが続いていたのですが、久しぶりに展示室を使った大きな工作をしようということで、ＮＰＯ法人アートフル・アクションに講師を依頼しましたところ、段ボールで太鼓をつくるというアイデアが出まして、実施しました。もう一つの目的としては、そこで太鼓や、太鼓をたたくばちな

どを飾るさまざまな材料、これは紙とか、布等ですとか、そういったものを参加者から集めて、それをまた次の猪熊展のワークショップにも活用していこうというもくろみもありました。実際、進行の面で、人数が多かったこともあり手間取って、なかなかそこまで行かなかったのですが、ただ、太鼓をつくって音を出すということの楽しさ、おもしろさは感じていただけたようです。実際に自分で手を動かして、木の枝を削って紙に穴をあける道具をつくる体験や、子供も大人と一緒にやるという体験、そういった要素も盛り込んだものでした。

このような小さい子供、あるいは大人１人での参加もありました。その参加者の反応につきましては、資料２のアンケートに自由意見なども記載していますので、ごらんください。ワークショップとしては以上です。

【中村学芸員】　　続きまして、３番目の出張授業ということで、東京都図画工作研究会北多摩大会というのが本年度の１２月に開催されます。それに向けて、東小の図工の先生のほうから、研究授業を一緒に行えないかということでお話をいただきまして、猪熊弦一郎をテーマに「対話彫刻」を一緒につくるという研究授業を行いました。

この題材がすごく身近なものでつくれるというのと、実際にテーブルに黒いテーブルクロスを敷いてちょっと特殊な舞台のような形にして、そこに自分のつくったものを並べることで、レイアウトとか、ちょっと自分の手元にあるのとは違うような見方をしてみようということで、置いていきました。その後に言語活動というのを学校も盛んにやっているそうなので、猪熊の体験を追体験できるようにという形で、「対話彫刻」というタイトルから対話させてみようということで、附箋に言葉を書きました。つくってみる、並べてみる、最後、見てみて対話させるというのを行って、猪熊弦一郎と同じような追体験をして、最後に猪熊弦一郎がどういう人だったかというのをお話しするという授業だったのですが、こちらが思った以上にフォークとか、ちょっと不思議な素材を子供が食いついて使いました。（画像を見て）ここの言葉、言語とあるのは何か記号でしゃべっていて、日本語じゃないのをしゃべるだろうなと多分、この子は思ったみたいで、記号で話をさせていたりとか、いろいろな表現が出て、おもしろかった授業です。

今、１階の机のエントランスのアンケートを記入できるところにも、デジタルフォトフレームでこの子供たちの作品の写真を流していて、実際に東小の５年生の学年だよりにも、こういった形で授業をやって、猪熊展がやっていますというのを載せていただいたので、広報としても、いいチャンスになったのかなと思っております。

また、都図研の方が次回、北多摩大会の研究会のときにも美術館の宣伝スペースを設けてくれるそうなので、活用していきたいなというのと、実際にこの研究授業をやったことで、ほかの武蔵野市の先生たちがこの展覧会を見学に行きたいという申し込みがあったりですとか、すごく反応がありました。猪熊とうちの美術館が広がる良いきっかけになった授業でした。　授業に関しては以上です。

【鉄矢会長】　　実施予定。事業報告は以上ですね。

【荒木学芸員】　　現在開催中の展覧会、これは、「丸亀市猪熊弦一郎現代美術館所蔵作品による猪熊弦一郎展～どんなことをしても僕なんだ～」、さきに展示のほうは既に見ていただいたとおりです。今、見ていただいているのは開会式の様子です。話をされている方は、猪熊の弟子だった方で、新制作協会の作家の方です。そのほか、丸亀の猪熊弦一郎美術館からも館長さんはじめスタッフの方もいらしてくださいました。

大変盛況でした。ちょうど展覧会が一般公開になったのが１９日からということで、ちょうど３連休になりまして、１日休館日を置いて、今日が最初の平日だったのですが、これまでのところ、初日から７５名、１１６名、１１５名、そして、最初の平日の今日で５４名ということで、いつもスロースターターな当館としては、かなりの来館者数になっております。グッズなどの売れ行きも好調です。ですので、このままのペースで行きますと３，０００人はかたいぐらいです。そして、こちらの資料にもありますように、これから関連イベントも開催されますし、９月に入ってからの平日には、鑑賞教室が３校予定されています。

今回は巡回展ということもありまして、市の美術館としてはできないホームページ、ツイッター、フェイスブックも始めまして、そちらのほうでもかなりいい手ごたえを得ています。

【鉄矢会長】　　ありがとうございます。学芸大学、もうすぐ免許更新講習で、美術の先生が毎日１００人規模で来るんですけど。

【鉄矢会長】　　でも、朝から晩まで、４時半過ぎまでやっていますから。ただ、その中でうまくこの館のおもしろさが宣伝できるとすごく……。

【荒木学芸員】　チラシ置いていないでしょう。

【鉄矢会長】　　いや、置いてありますよね、今も。だから、どういうふうにやればいいんだろうと思って。私の授業は６０人があるんで、そのときはまきます。

【荒木学芸員】　ありがとうございます。

【山村委員】　　企画展特設フェイスブック、ツイッター、あと何だっけ。

【荒木学芸員】　ウェブサイトにホームページをつくります。

【山村委員】　　これは誰がつくっているんですか。

【荒木学芸員】　これは、当館が巡回展の事務局ということもありまして、いつもいろいろとお世話になっていますＮＰＯ法人アートフル・アクションに依頼しました。

【鉄矢会長】　　では、３番目に移ります。平成２６年度後半、実施予定事業について、状況報告をお願いします。

【中村学芸員】　　まず、展覧会は猪熊展をスタートに所蔵作品展を企画しております。１０月２５日から１２月１４日の第Ⅰ期と、１２月２３日から２月８日の第Ⅱ期のⅠ期、Ⅱ期のものを考えておりまして、まだ仮タイトルですけれども、名品、いわゆる人気の高い中村研一の作品とプラスして、小企画で、学芸員が押したい、ふだん日の目を見ないような作品だとか、ちょっとしたマニアックな企画を立てて、２本立てということで展示を行おうと考えております。Ⅰ期、Ⅱ期、それぞれ私と荒木さんで担当を変えて、展示を少し変えるという内容になっております。

そこで、関連企画で考えておりますのがリピーター、前回の運営協議会でお話しさせていただいたのですが、１回、第Ⅰ期に来た方も、また第Ⅱ期も来ていただくメリットがあったほうがいいということで、来ていただいた方に何か、ポストカードなどをプレゼントするような仕組みを立てるとか、そういったことを企画しております。今のところ、詳しく決まっているのがそういった内容ですが、こちらの展覧会に関しては以上です。

タイトル、いい案がございましたら、おっしゃっていただけるとすごく助かります。

【鉄矢会長】　　ぜひこの小さい美術館で学芸員をやっていて、そういうところを伸び伸び学芸員の力を合わせてできるというところを、学芸員を目指している学生たちに見せたいですね。学芸員はこういう楽しいことができるんだよという、こういうふうに悩んで、こういうふうに研究したから、私はこれを押すというところが見えると、すごくマニアックな人がさらに集まって、盛り上がりそうな気がして。

【中村学芸員】　　ありがとうございます。

【鉄矢会長】　　学芸員になりたいという人たちにうまく話が行くとおもしろいでしょうね。

【中村学芸員】　　そうだと思います。

【荒木学芸員】　　次の所蔵作品展の後の企画展につきましては、年度末、来年の３月

２８日から５月２４日、これはまだ予定です。年度末開始の予定ということで、まだ大まかな内容で、前回からあまり変わっていません。これから作品の出品交渉ですとか、具体的な内容を詰めていくところです。

【中村学芸員】　　続きまして、教育普及事業に関してなんですが、③番のおはなしのへや「夏のおもいで～花火を描こう～」というものを８月２１日に行います。今回、猪熊展の関連企画として読み聞かせ会もあるのですが、これはその企画とは別で、当館が昨年の１０月から続けている「おはなしのへや」の連続企画の１つになりますので、今回は黒い画用紙に花火を描くという夏休みの宿題にもなるのじゃないかというような内容で企画を行います。これも概要に関しては、今までどおりの内容になっております。

続きまして、鑑賞教室ですが、所蔵作品展開催中に２校見学に来まして、今回、猪熊弦一郎展では、夏休みの期間に入ってしまっていて、なかなか受け入れが難しいですが、夏休み終了後の１週間で３校受け入れるという強行スケジュールで、その後の所蔵作品展で残りの４校が見学に来るような予定になっております。

最後、３番のその他ですが、多摩ミュージアムネットワーク研究会の集まりが来月の６日にありますので、そこで先ほどお話があった都図研での美術館のＰＲ、多摩美術館でＰＲできないかというのを議題として挙げて、多摩で美術館を盛り上げるようなお話し合いができればいいなと思っております。

予定に関しては以上です。

【山村委員】　　都図研が今年、どこであるんだっけ。

【中村学芸員】　　場所は東村山市。１２月１２日、金曜日です。鉄矢先生がつながる・みつける、の研究会のほうに参加されるとお聞きしました。私もそのつながる・みつける研究会の一環として先ほど報告した授業を行いました。

【山村委員】　　都図研というのは、東京都の図工研究会というのがあって、東京都全体の先生の中の図工の先生が集まって研究大会をやっているのですけど、かなり大きいですね。

【中村学芸員】　　大きいですね。この間、私は２カ月に１回ぐらい集まってお話し合いされているので、それに参加させていただいて、そこでチラシを 60・70 人に配らせていただきました。そのとき、府中市美の武居さんもいらして、そこで多摩ミュージアムネットワークと都図研で何かＰＲできる場所があったらいいねという話が盛り上がっているところです。

【鉄矢会長】　　質問ですけど、９月５日の東小のものは、今回のはけの森の前回やった７月４日の研究授業とのネットワーク、絡みはないですか。

【中村学芸員】　　実は学年が違っていまして、この間、授業をやったのは５年生で、逆に昨年、佐藤慶次郎で見た子が違う作家の、はけの森を知るという連続性を持たせた形でやりました。今回は４年生なので、つながりをどうするかというのはまだ話し合われてはいないですけれども、４年生にも授業では、対話彫刻のお話しは、先生がされたとおっしゃっていたので。

【鉄矢会長】　　わかりました。学年が違うのですね。

【中村学芸員】　　はい。

【鉄矢会長】　　明日、後藤先生と打ち合わせです。

【事務局（吉川）】　　この間、後藤先生がここにもいらっしゃって、お話を私も聞かせていただいたのですけれども、美術館の広報だけではなくて、学校の授業と美術館というものをどうつなげていくのかということを府中美術館はずっとやっていらっしゃいますが、そのところをできればいいですねというとても未来は明るいというお話でした。

【鉄矢会長】では、４番目、その他、意見交換等というところ。

【荒木学芸員】　　一応、来年の企画展は長野県信濃美術館からのご協力を得られることにはなっているということです。。

【薩摩学芸顧問】　　何でこの２人の名前が挙がっているとか、そういった点。

【荒木学芸員】　　前にも少し触れたと思いますけれども、河野通勢と中村研一。中村研一は当館ではおなじみですけれども、河野通勢も実は小金井で後半生を過ごした。

【薩摩学芸顧問】　　これは何と読むの。

【山村委員】　　一応ミチセイが本名の読み方なのですけど、後半はツウセイでも通っていたので。自分でもＴと書いていましたから。昔はMなのです。

【荒木学芸員】　　テーマは、河野通勢と中村研一がどちらも途中から都心のほうから小金井に移ってきた。時期は全然違うのですけれども２人とも同い年で、１８９５年生まれであって、来年が生誕１２０年であるということで、これはここでこの２人、小金井の関連する作家として、中村研一だけじゃなくて、河野通勢もいるよということを紹介したい。かつ、中村研一も、２人とも生誕１２０年なので、これを記念した展覧会をしたいということで企画しました。

【薩摩学芸顧問】　　府中がいい作品を持っていますね。

【荒木学芸員】　　ただ、ほかにも調布ですとか、都内のほかの美術館に、河野通勢はたくさんあるのですけれども、河野通勢と中村研一両方の作品を持っている美術館として、まず長野県信濃美術館に、ご協力をお願いしているところです。たまたま河野通勢は長野で青年期を過ごしたことと、中村研一は後半、毎年のように日展や光風会の仲間とスケッチ旅行に行っていて、その関係で、日展公募者や作家の作品がまとまってそちらの美術館に入っていて、展示の作品も七、八点ほどあるということです。

【鉄矢会長】　　その企画案がすごいガラス張りで、クリアな感じで、何かよくわからないところで決まったものじゃなくて、どんどん決めていくのが見えて、なかなか気持ちいいな、こういう企画で。その後、府中に声をかかっているので。

【荒木学芸員】　　同じ年と知ったときは、ただびっくりしました。全く傾向が違って、代表作の時期も全然違うのです。違う時代の作家に見えてしまう。見られることが多いので、その意外性も見せようということです。

【鉄矢会長】　　そのほかに意見交換等、もしございましたら。

【村澤委員】　　この前、ちょっとテレビを見ていたら、全然話は違うのですけど、藤田嗣治の手紙が見つかったことをケーブルテレビで見まして、この館にあったのですかね。その辺、もし機会あれば、拝見させていただければなという気はしなくないですけど。

【荒木学芸員】　　手紙に関しては、この美術館でなくて、中村研一のご遺族がお持ちです。当館でも、藤田のはがきは何通かあって、今回、一部展示していますけれども、あちらでも脚注に書いたように、まだ個人蔵ということで、正式にこの館のものにはなっていないのですね。なので、ある程度公開するときには許可が必要ということになります。

【村澤委員】　　そういうことね。

【平岡館長】　　そうですね。そのテレビの関係は、実はご遺族の方が直接ご協力の話をされて、場所については、こちらのほうで以前お使いになっていらっしゃったところもありますので、ご協力というか、許可したというような経緯がありまして、館としてではなくて、ご遺族のほうが直接テレビ局とやりとりされたというのが中心ということでいいですね。

【荒木学芸員】　　その中で関連して作品の撮影とか、そういったことでは協力しました。

【村澤委員】　　鑑定が藤田嗣治、自画像か何かが下にありましたけれども、その辺のところがつながりというのがもし機会があればそういう展覧会にしていただければなと思い

ました。藤田嗣治の絵というのがちょっと特殊な絵みたいなので、雰囲気が合うかどうかわからないのですけど。

【薩摩学芸顧問】　　藤田に関しては今、２系統で大きな展覧会が企画されているみたいですね。中日新聞絡みのほうが１本と、それから、京都市、京近美かな。京近美で開催して、多分、都美館に回るのかな。つまり、藤田嗣治はいろいろと、非常に特色のある作家ということもあるのですけれども、戦争画を描いたとか、いろいろなことで、別に彼だけがやったわけじゃないのですけれども、ちょっと日本を離れてしまって、亡くなられた後、奥様が藤田の遺志を継ぐということで、藤田は日本の近代の作家ではないと。フランスのエコール・ド・パリの作家であるという非常に思いが強くて、意外に日本近代の展覧会には出品を拒否されるというようなことが非常に多かったのです。大量に資料もあったのですけれども、それもずっと奥様が守っていらしてと。

その奥様が亡くなられまして、弁護士も入っていろいろと資料の整理が進みまして、大半の資料は実は今、芸大に我々が引き取りまして、整理をかけているところです。ただ、それ以外のものも、秋田のほうでもまた新しい館が開館しましたし、これからあちこちに散らばっている資料がかなり出てくるだろうと思われるところです。

中村研一と藤田も随分関係がありますので、そういう点では、このあたりからも、特に中村研一のご遺族、その他を含めてまた出てくる可能性があると。そういう状況で、ちょっと藤田絡みはこれから２年か３年の間、少し動きが大きくなってくるだろうと思います。

【河合委員】　　まず、今日、聞かせていただいて、年間スケジュール等を見させていただいて、ほんとうに学校教育、教育普及事業では、ご協力いただいて感謝しています。私も美術的なことが専門じゃないので、なかなか発言を言えないところではあるんですが、先ほど「おはなしのへや」とか、夏休みの宿題にも使えるというようなお話もいただいたりしているので、ワークショップ的なものとしては、大変いいものが多いなと思っています。また私の立場で学校関係にも紹介できると思っていますし、去年も校長会に、ここが無料で開放される件がありましたね。あんなものを周知させていただいたりしていますので、もし必要ということで、今日、都図研というものが出ていますので、関係のほうに連絡をして、チラシをということだったら、また課長を通してやらせていただきます。

【平岡館長】　　ありがとうございます。

【薩摩学芸顧問】　　ご協力のほうをよろしくお願いいたします。この美術館をつくるときに、委員会が２つほどあって、私、委員長をしていたんですけれども、最初から私の頭

の中、委員会の先生、委員の方々の頭の中にあったことは、とにかくこういう場所といい、この大きさといい、この美術館がそんな毎年５万、１０万の人が訪れるような美術館にはなりようがないわけで、そういう中でどういうふうな活動をしていくかということを考えると、幸いにして小金井のちょうど中央にありますので、ある意味でどの学校からも公平な位置にあるというようなこともありますし、やはりこういう規模その他からいって、まずは小金井の学校との連携、もちろんそれは大学も含めて。最初から学芸大には大変お世話になっているのですけれども、学校との連携ということが大きく視野にあったのですね。それが同じような方針というか、気持ちで５年以上続けてくると、だんだん輪が広がっていくのだなと思います。やはり継続というのは大事なことで、しかも今、全体的なことを見ていますと、多摩のほうがいろいろな意味で少し元気が出てきているような気がするのです。今どちらかというと区立美術館がかつての勢いがないです。ちょっと苦しい状況にあって、要するに都会のほうはみんな森アーツセンターとか、新国立とか、ああいうところに吸収されて、区が非常に苦しい反面、ちょっと多摩は小規模なものが多いとはいえ、学校との関係、その他含めて少し元気が出てきているので、そういう点では中心がほんとうに府中とか、そういう美術館などとは思いますけれども、これからちょっといい流れになってくるかなとは思っております。またよろしくお願いします。

【鉄矢会長】　皆様のご意見で、次回は１０月２１日の火曜日６時３０分に市役所会議室で行います。では、これで平成２６年度第２回小金井市はけの森美術館運営協議会のほうを閉会したいと思います。ありがとうございました。

―― 了 ――